

活動名	団体名	カモミール～ラマシカ～
	地域	広島県東広島市
	代表者	代表 蘆田 智絵
	支援金額	10万円
世界の遊びを体験してみよう！		
活動概要		
<p>本活動では、地域の子どもたちに外国人留学生と日本人大学生が世界の遊びを紹介することによって、国際交流を行った。具体的には、外国人留学生が子どもたちに自国の文化や遊び、子どもの生活の様子を紹介し、子ども達と一緒に遊んだり、外国の生活を体験したりした。エストニア・セルビア・中国・ロシア・バングラディシュ・インドネシア・タイ・マレーシア・ドイツの留学生が参加し、子どもたちとの交流ができた。子どもたちは遊びを通して楽しく国際交流をし、世界への興味関心をもつようになった。また、教員を志望する日本人大学生が将来子どもたちに国際交流を推進するための経験を積むことができた。留学生には、より日本のことを知る良い経験になった。</p> <p>◆実施時期 2011年5～7月、9月～2月第3木曜日／3月5日(東広島市三ツ城コミュニティハウス) 2011年9月24日(広島県安芸郡熊野町公民館) 2012年1月21日／2月25日(広島市子ども図書館)</p> <p>◆参加人数 児童・生徒 85人、 学生 22人、 留学生 9人(エストニア・セルビア・中国・ロシア・バングラディシュ・インドネシア・タイ・マレーシア・ドイツ)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 116名</p>		



インドネシア 留学生さんに国の紹介をしてもらっているところです



セルビア 留学生さんにサインを書いてもらっています



タイ 留学生さんに国の紹介をもらっているところです。皆真剣に聞いています



中国の遊び 留学生さんと一緒に思いっきり体を動かして遊びました

◆実施に伴う効果

- ・ 外国の文化を本などで学ぶことは出来ても、実際にその国の人に会い、話すことはなかなか出来ないで、留学生との交流を1年で12回も行うことができたことは、とても良かった。子どもたちは留学生から、これまで知らなかったことを学び、一緒に遊び、世界を広げることができた。活動を何回も続けることで、子どもたちの方から留学生に対してたくさん質問が出るようになった。子どもの外国や留学生への興味関心が高まってきた様子がうかがえた。
- ・ 異なる学年の子どもたちが一緒に遊ぶことができ、年上の子どもは年下の子どもの世話をする場面もあった。違う年齢の子どもとかがかわることができる機会にもなり良かった。
- ・ 留学生が本物の楽器や生活用品、おもちゃをもってきてくれ、子どもに本物を伝えることができた。
- ・ 活動回数を重ねるごとに、学生のプログラムの組み方や子どもとのかかわり方も上手になってきた。国を紹介する上で、1つの方法ではなく、パワーポイントを使ったり、クイズをしたり、留学生と一緒にゲームをしたり、留学生にサインをもらう機会を作ったりというように、子どもと留学生が出来るだけ多くふれあうことが出来るように、多角的な方法でアプローチするようにした。また、授業ではなく子どもが遊びとして楽しめるような活動を意識して行った。
- ・ 留学生にとって日本の子どもと遊ぶことは滅多にないためとても良い経験となった。

◆苦労した点

- ・ 留学生は子どもの前で話す経験はあまりないので、なかなか子どもにうまく遊びのルールや国の文化について説明したりできないこともあった。そのときに日本人学生が子どもたちにわかりやすいように説明をしたり、子どもが興味をもつような手立てをしたりする必要があった。しかし、その対応がうまくできず難しいこともあった。だんだんとうまくできるようにはなったが、子どもと留学生の交流が充実するために上手く支援できるよう工夫していきたい。
- ・ 外国の遊びを小学生がわかりやすいように説明するため、また学校の教室内でできるようにするため、少しルールを本来のものとは変更せざるをえないこともあった。できるだけ勝手につくり変えることは避けたいが難しかった。
- ・ 留学生に紹介してもらった遊びは体を動かす遊びが多かったが、活動はいつも室内でしなくてはならなかったのが難しかった。狭い室内で走り回る代わりに、しゃがみ歩きや四つん這いで移動などを取り入れたが、やはり体を動かす遊びを室内でやることは大変だった。またけがをしないように配慮するのも難しかった。
- ・ 子どもが途中で飽きてしまうこともあり、どうしたら子どもが興味をもって遊べるような活動ができるか考えるのが難しかった。また、子ども主体ということを意識しすぎたせいか、ときにはうまく叱ることができず無秩序になってしまったこともあった。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ 留学生と子どもがしっかり交流できるためにはどのような活動を行っていったらよいか、さらに活動内容や方法を改善していきたい。
- ・ 英語が上手く話せないこともあり、留学生と活動を考えていく際にコミュニケーションが難しく感じた。今後は、英語での会話がうまく出来るよう努力すると同時に、留学生ともっと意思疎通ができるように努力していきたい。
- ・ 子どもたちが受動的な参加ではなく能動的な参加ができるような場面を増やしていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

私たちは、将来教員を目指しているため、子どもたちに国際交流の機会を提供するのにどのような手立てが良いかを学ぶとても良い機会となりました。活動を準備するのはとても大変でしたが、マツダ財団様にご支援いただき、1年に12回も活動を行うことが出来ました。

たくさんの経験を通して、子どもとどうやってもうかかわったら良いか、また子どもにとってどのような国際交流の場が必要なのかを学ぶことができました。また、大学でも普段は留学生と接する機会はなかなかないので、滅多に出来ない経験ができました。

活動を終えて、子どもから「楽しかった」という声が聞けた時はとても嬉しく、この活動を続けてきて良かったと思いました。また子どもが留学生に質問をしたり話しかけたりしている姿をみた時、小さいころから様々な国の人とかかわる経験することは異文化への興味関心の芽生えにつながり、これから国際社会で活躍する子どもたちを育てていくうえでとても大切なことだなと感じました。

1年間の活動を終え、メンバー全員がこの活動を続けてきて良かったと達成感を感じることができました。昨年度に引き続き今年度も活動をつづける機会をくださって本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。